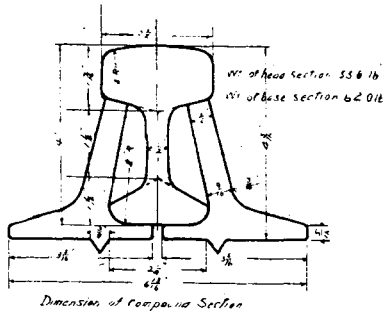


拔 萃

土 木

○新形軌條 圖に示す如き新しき断面を有する軌條は、Minnesota州 Minneapolis 附近の St. Paul and
Sault Ste. Marie の軌道に四十呎の長さにて使用せられたり、此軌條は三個の分離せる部分より成り其斷



面は圖に示すか如く、其中央部は英國のブルヘッド軌條の如き形狀をなし頭部を除き其他は二個のT形支承断面にて包まるゝものなり、而して中央部は頭部の下面及び底部を下形断面にて支へ得らるゝ様に作らるゝものなり、孔は支承断面の凸出せる脚部に穿たれ軌條を締着せしむるための締釦及び犬釘の使用に供せらるゝ、而して三つの部分を結合し且つ接合を作るに用ひらるゝの外何等の締着をも要せず。

此軌條の利益とする所は中央部の接合か支承部の接合に對して關係なく且つ如何なる種類の添接をも要せざることなり、又他の利益としては磨滅すへき場所は組成断面の重量の約二分の一にして、磨損し易き中央部は支承部と獨立に取換へ得る點にあり。

此軌條は一九一四年十一月より開通せしもの。線上に使用せられ、線路の終始兩端には長さ一〇呎他の部分には長さ二〇呎を有する中央部及び同し長さの支承部より成りて互接 (break joint) を作り終始兩端に於ける標準軌條に接續する部分には Compromise joint を設けたり。

拔 萃

拔萃

此軌條の使用高少なかりし爲め、中央部のものは展製せず鐵材を削りて作れり、而して支承部には工形斬を用ふることを得へし。

此軌條を以て作れる軌道は暫検査せられたれども、使用後日尙ほ淺きを以て未だ完全なる結果を認むること能はされとも將來多大の望を囑すべきものならん、此軌條は American Safety Steel Rail Company にて製作せられたるものなり。

(Railway Age Gazette, Vol. 60, No. 3, Jan. 21, 1916.....E)

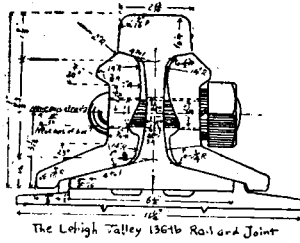
○一三六封度軌條 Lehigh Valley

此の注文をなせり、而して此の軌條は米國に於ける蒸汽鐵道にて使用せらるゝものの内最も重きものなり、其の寸法は高さ七吋、底部の幅六吋二分の一にして、現在使用せらるゝ百十封度軌條よりも高さ及び幅に於て各一吋を増加せり、而して一般の寸法は圖に示すか如し。

又此軌條の接合に使用せらるゝ角釘も亦新たに設計せられたるものにして、其寸法は圖に示すか如し。

今金屬分布の割合を示せば次の如し。

| | | |
|---------|----------|--------|
| 頭部の面積 | 四・七二平方吋 | 三五・四% |
| 腹板の面積 | 三・一七平方吋 | 二三・七% |
| 底部の面積 | 五・四六平方吋 | 四〇・九% |
| 合計 | 一三・三五平方吋 | 一〇〇・〇% |
| 惰率 | 八六・五七 | |
| 抵抗率(頭部) | 二・一九八 | |



The Lehigh Valley 136lb Railroad Joint